令和２年度　第２回遺跡見学会

令和２年10月11日（日）

寄居町

# 富田庚申塚遺跡（第７次）

とみ　た　こう　しん　づか

富田庚申塚遺跡は、寄居町大字富田字庚申塚周辺に広がる縄文時代～奈良・平安時代の集落遺跡です。遺跡は寄居町教育委員会・同遺跡調査会によって、これまでに６回にわたる発掘調査が行われ、平安時代の竪穴住居跡などが見つかっています。

今回の第７次発掘調査では、平安時代の竪穴住居跡のほか、縄文時代の土壙（どこう）（人が意図的に掘った穴）や近世の溝跡などが見つかりました。

遺跡名の由来となった庚申塔

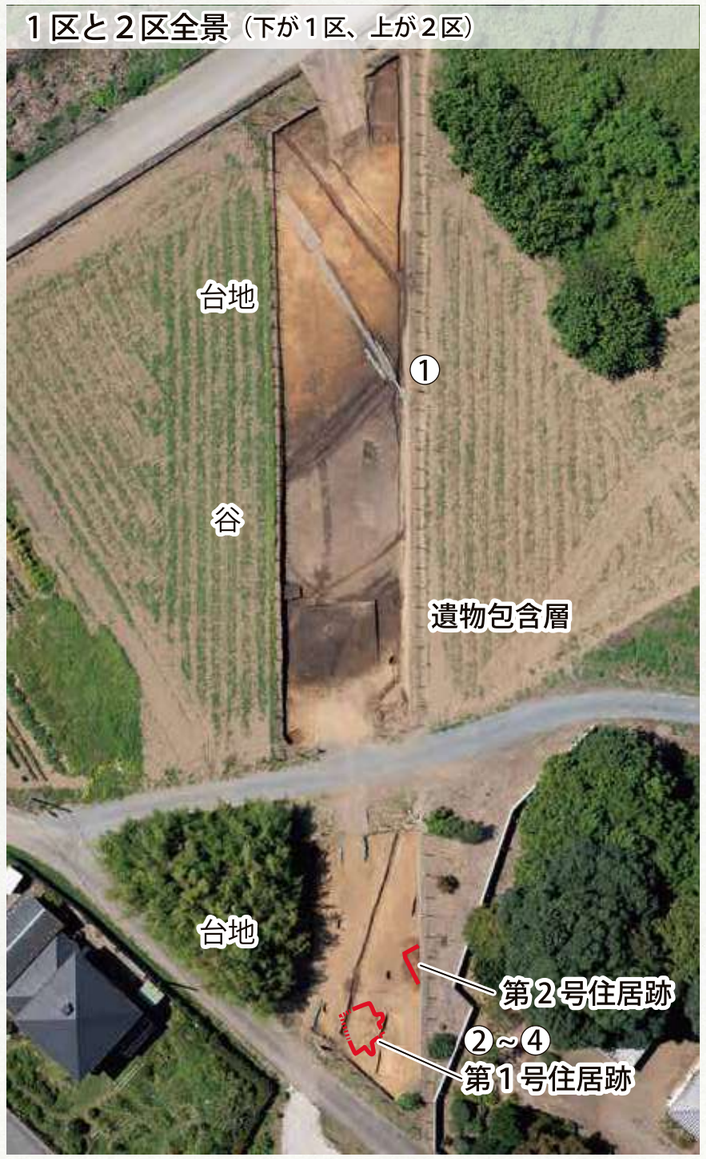
**主催**

埼玉県教育委員会・公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

**後援**

寄居町教育委員会

## 第７次調査の成果



谷部で見つかった溝跡

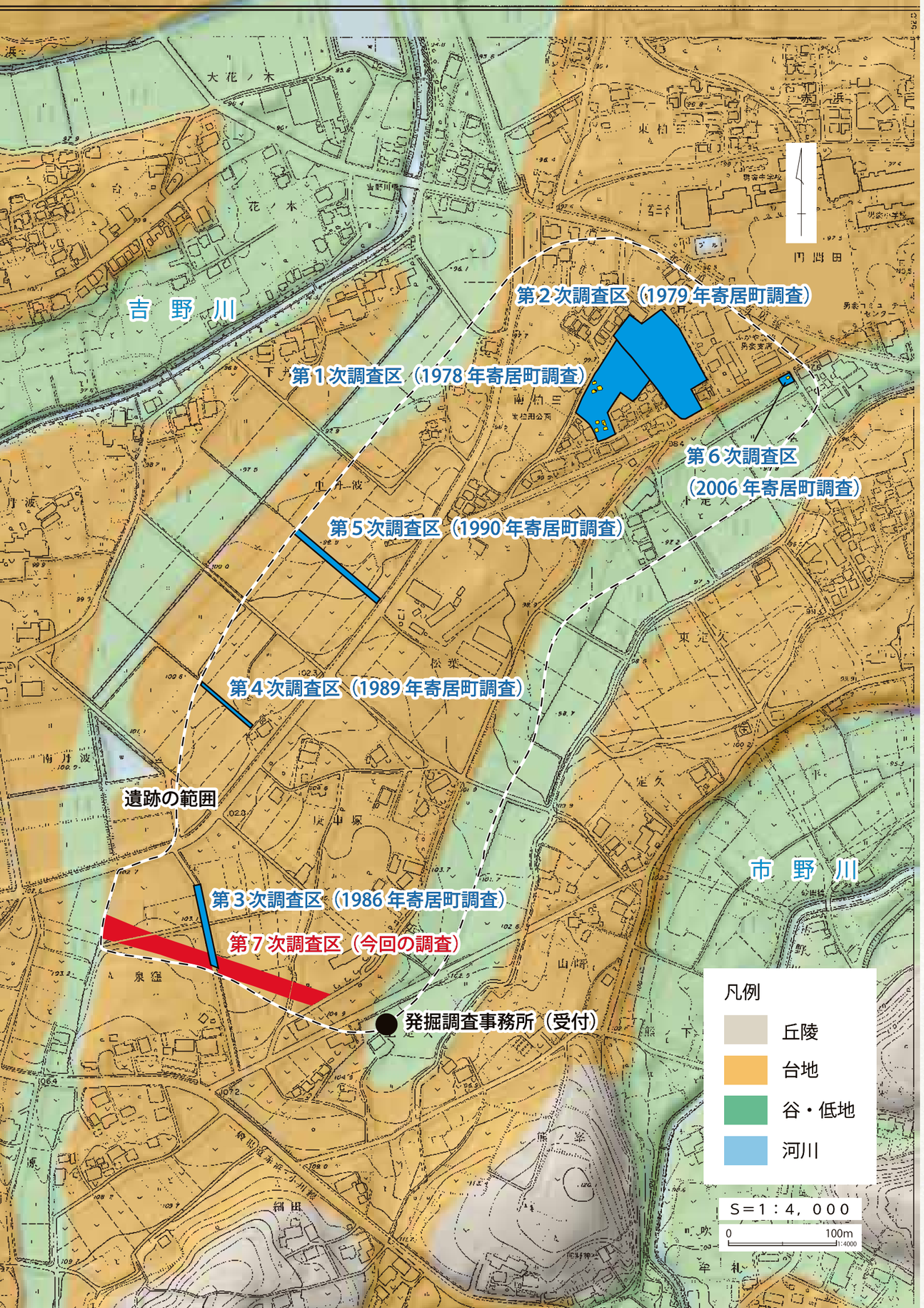
第１号住居跡のカマド

住居跡の貯蔵穴から出土した土器

住居跡から出土した土器

第７次調査は調査区を４区に分けて、調査を進めています。これまで１・２区の調査を終え、現在は３・４区の調査を行っています。

調査の主な成果として、１区では平安時代の竪穴住居跡が２軒見つかりました。特に第１号住居跡は、写真のように、新旧２基のカマドが設置され、土師器や須恵器、刀子（とうす）（現在の小刀やナイフにあたる小型で短い刀）などが出土しました。２区では東から西に向かい、台地が谷へと落ち込み、再び台地に上がる地形が確認されました。この谷のなかから、江戸時代以降の溝跡が見つかりました。また、谷へ落ち込む斜面では、縄文時代や平安時代の遺物を含む土層（遺物包含層）が見つかりました。




# どんな遺跡？

第１次調査区の平面図
（赤印が竪穴住居跡）

第６次調査区の平面図
（赤印が竪穴住居跡）

第１次調査区北側で見つかった竪穴住居跡
（寄居町教育委員会提供）

第１次調査区南側で見つかった竪穴住居跡
（寄居町教育委員会提供）

富田庚申塚遺跡は、江南台地（こうなん）に立地し、その範囲は南北約 800m、東西約 300mに及びます。遺跡の西部には吉野川が北流し、南東部には市野川が南流します。南には小菅山（こすげやま）と呼ばれる山が控えています。

発掘調査は 1978 年から、今回の第 7 次調査まで実施されてきました。平安時代の竪穴住居跡が、第 1 次調査では 7 軒、第 6 次調査では 1 軒見つかっており、平安時代に集落が営まれていたことが分かりました（上図）。竪穴住居跡からは、土師器（はじき）や須恵器（すえき）と呼ばれる土器が出土しました。展示室で是非ご覧ください。